

Vol.154 「中学生の好きな教科・嫌いな教科」

日本の義務教育は、小学校6年間と中学校3年間の計9年間です。この義務教育期間の「学習指導要領」では、全国のどの地域で教育を受けても、一定の水準の教育を受けられるようにするため、それぞれの教科等の目標や教育内容が定められています。また、各学校では、この「学習指導要領」や年間の標準授業時数等を踏まえ、地域や学校の実態に応じた教育課程(カリキュラム)を編成して、中学生の状況に応じた授業も実施されているようです。今回は、全国の中学生を対象に、自分が通っている中学校の授業の楽しさや、好きな教科と嫌いな教科について調査しました。



調査概要

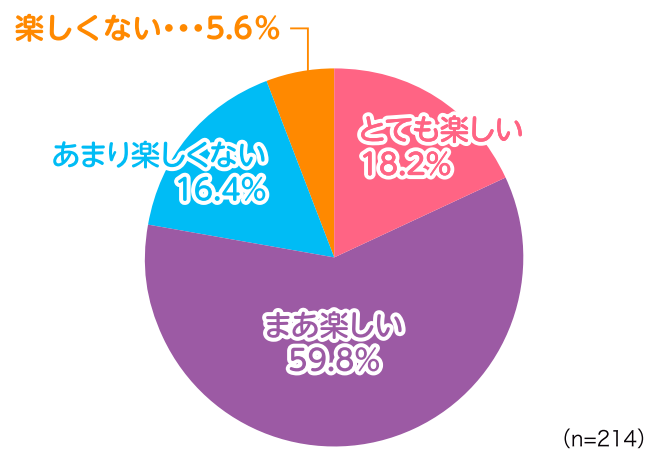
調査対象：全国の中学生の男女 214人

調査方法：郵送調査

実施時期：2018年7月

Q 1. 学校の授業の楽しさ

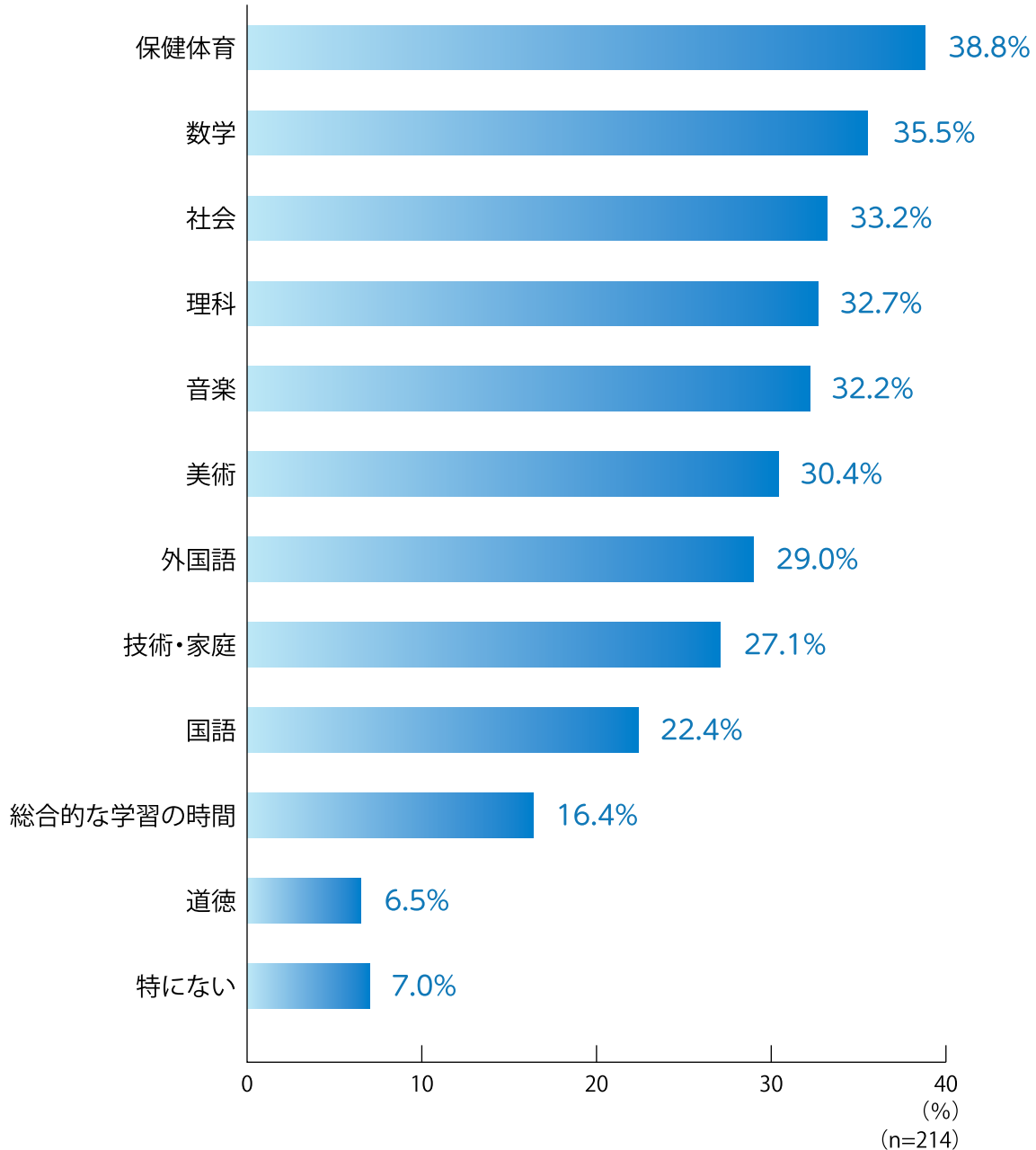
中学生に学校の授業が楽しいか聞いたところ、「とても楽しい」(18.2%)、「まあ楽しい」(59.8%)という回答を合わせると約8割の中学生が授業は楽しいと回答しています。



【図1】 学校の授業は楽しいですか。(単数回答)

Q 2. 中学生の好きな教科

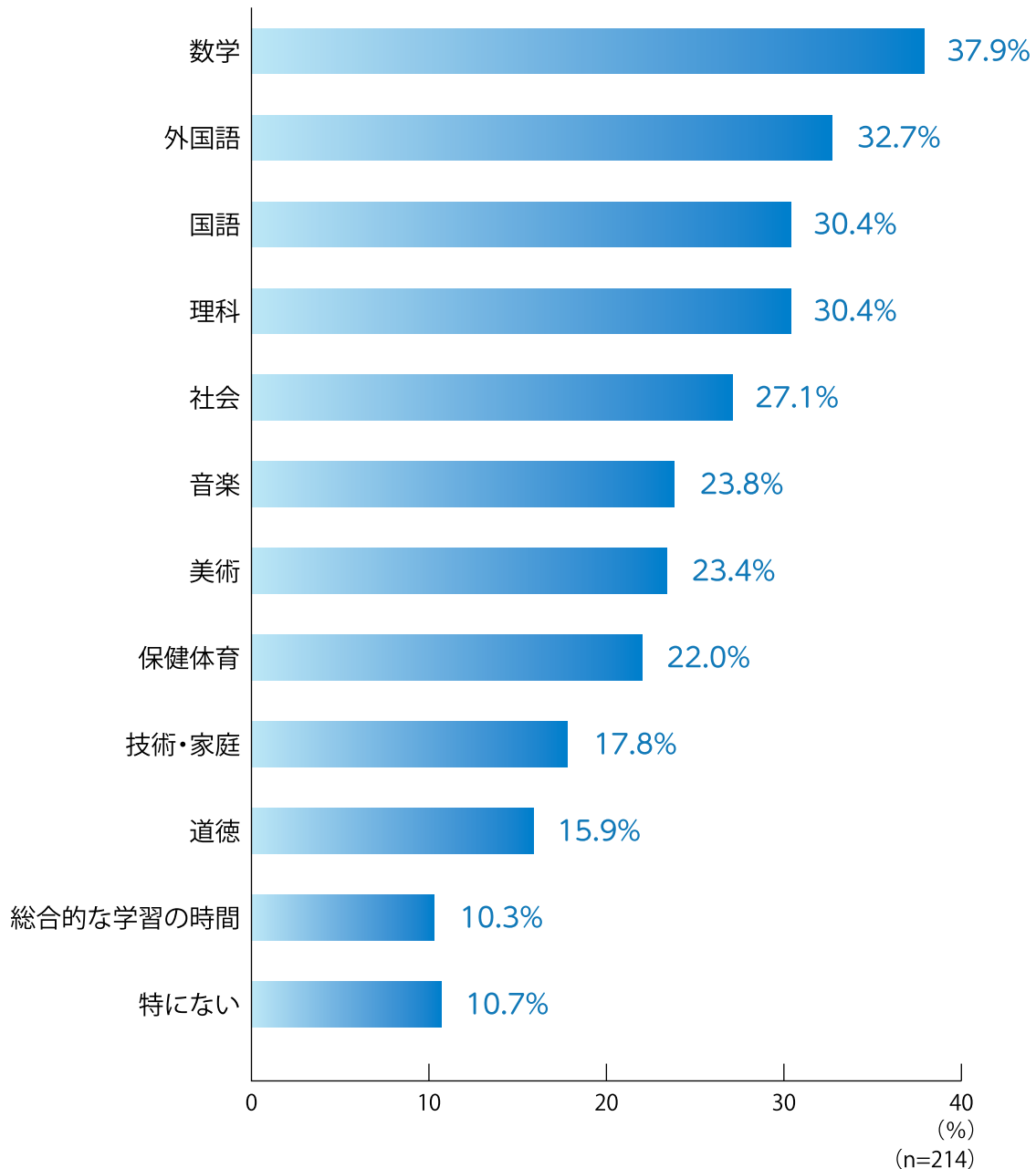
好きな教科は、「保健体育」(38.8%)が最も多く、次に「数学」(35.5%)、「社会」(33.2%)、「理科」(32.7%)、「音楽」(32.2%)、「美術」(30.4%)の順になりました。来年度から全面実施される「道徳」(6.5%)を好きな教科にあげる中学生は少ないという結果になりました。



【図2】 あなたが好きな教科をすべてお答えください。(複数回答)

Q 3. 中学生の嫌いな教科

嫌いな教科として最も回答が多かった教科は「数学」(37.9%)でした。次に、「外国語」(32.7%)、「国語」(30.4%)と「理科」(30.4%)が同数で、続いて、「社会」(27.1%)、「音楽」(23.8%)、「美術」(23.4%)という順位でした。「総合的な学習の時間」(10.3%)は、2002年度から施行されていますが、嫌いな教科としてあげる中学生は少ないという状況です。



【図3】 あなたが嫌いな教科をすべてお答えください。(複数回答)

 まとめ

学習指導要領は、約10年毎に改訂されています。国際化が進む中で、「外国語」などのニーズは社会的に高まっていますが、「外国語」の授業が嫌いという中学生も少なくないようです。

今回、全国の中学生を対象とした調査では、中学校の授業は「とても楽しい」(18.2%)、「まあ楽しい」(59.8%)と多くの中学生が授業は楽しいと回答しています。その授業の好きな教科は、「保健体育」(38.8%)、「数学」(35.5%)、「社会」(33.2%)、「理科」(32.7%)、「音楽」(32.2%)、「美術」(30.4%)という結果になりました。一方、嫌いな教科は、「数学」(37.9%)、「外国語」(32.7%)、「国語」(30.4%)、「理科」(30.4%)、「社会」(27.1%)、「音楽」(23.8%)、「美術」(23.4%)という順位でした。中学生の好きな教科の1位と、嫌いな教科の2位に「数学」が入っていることから、特に、「数学」は個人による好き嫌いが分れる教科であるようです。また、新しく施行されている「道徳」や「総合的な学習の時間」に対しては、好き嫌いのどちらの上位にもあがらない教科であることがわかりました。

現在、2030年以降の社会を見据えた教育課程(カリキュラム)が実施されて、新しい時代を迎えようとしています。中学校は、全国のどの地域でも一定の水準の教育を受けられる義務教育学校として、これからの変化の激しい社会に対応できるよう、子どもたちの未来につながる力の育成が期待されています。

毎月最終
火曜日
更新

カンコーホームルーム ～学生を読み解くデータ集～

カンコーホームルームは、学生を取り巻く環境や子どもたちの意識・ライフスタイルについて、多角的に調査・分析し、その結果をお届けしています。
ホームページでは、今回ご紹介した調査データ以外にも様々な情報を掲載しております。

<http://kanko-gakuseifuku.co.jp>